

## 女性にとって身近な病気

## ～もっと知ろう、乳がんのこと～

**Q：定期検診はどのくらいの頻度で受ければいいですか。また、若い世代でも検診を受けた方がいいですか。**

**A：**厚生労働省の指針では、40歳以上の方に、2年に1回のマンモグラフィ検診を勧めています。これは2年空けなければならないと言うことではなく、最低でも2年に1回は受けましょうと言うことです。どの検診でも、受けることによる不利益（要精査となり心配になること、不必要な検査が増えることなど）があります。若い世代でも乳がんはありますが、頻度は決して多くありません。30歳台以下の若い世代の方は、定期的な自己触診を行い、しこりを触れたときには専門医を受診することを勧めます。乳がんの多くは「痛くない」しこりであることに注意して下さい。

**Q：乳がんの治療方法にはどんなものがありますか。**

**A：**乳がんの治療には、手術、薬物療法、放射線治療があります。手術療法には乳房部分切除と乳房切除があり、希望者には乳房再建手術も行います。薬物療法にはホルモン療法と抗がん剤治療、分子標的薬があります。実際の診療の場では、乳がんの性格やがんの進み具合によって、これらを組み合わせて行います。

**Q：男性は乳がんにはなりませんか。**

**A：**男性も乳がんになりますが、女性の乳がんの1%程度です。女性の場合よりも高齢に発症することが多く、硬いしこりを自覚した場合や乳頭が陥凹した場合には乳腺外来を受診しましょう。

**Q：乳がんの予防法はありますか。**

**A：**明らかな予防法は認められておりません。しかし、喫煙や過度のアルコール摂取、閉経後の肥満が乳がんのリスクを高めることは明らかですので、これらのリスク要因をなくすことは、予防につながります。特に喫煙、受動喫煙は全てのがんのリスクを高めますので、是非とも本人や周囲の人の禁煙を推奨します。喫煙をしながらがんを心配する方を散見しますが、本末転倒と思います。

**Q：乳がんの遺伝について教えてください。**

**A：**乳がん全体の5-10%が遺伝性であると言われています。家族内に35歳未満で乳がん罹患した方のいる場合や乳がんや卵巣がん、前立腺がんの方がいる時には、遺伝外来での相談をお勧めします。当院でも今年から遺伝外来を開設しました。



女性腫瘍統括局長  
**穂積 康夫 先生**  
が答えました



## ひと言

最近テレビ・雑誌のマスコミ等で乳がんについての報道を多く見受けます。しかし、多くの場合興味本位で内容に関しては疑問符の付くことが大部分です。また、インターネットの情報も玉石混淆で、時には有害な情報も沢山見られます。

乳がんについて関心のある方には「患者さんのための乳がん診療ガイドライン（日本乳癌学会編：金原出版）」を一読することをお勧めします。一人の医師の意見ではなく、日本全国の多くの専門医が執筆し、看護師や患者代表の方が一般の方々にも判りやすく監修しています。病院の売店に置いて頂いていますしネットでも簡単に手に入ります。